



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和元年7月

うるわし通信

クレーンのある風景



JR三輪駅東側での大神神社「直会殿・能楽堂」の建設現場

今、桜井市内で大きなクレーが動いている工事現場があります。1つは、一昨年7月（地鎮祭）より工事が進められている大神神社の新直会殿の工事現場であり、もう1つは、桜井駅北側での新設ホテルの工事現場です。（写真は何れも基礎工事段階のものです）

大神神社の新直会殿の完成予定は11月で、3月に上棟祭が既に行われ、能舞台もあり今後地域文化活動への利用も期待されています。新設ホテル（名称 ルートイン桜井駅前）は、客室数175室で12月にオープンとホームページで紹介されています。

人口減少と地場産業の後退で、沈滞気味と言われる桜井市ですが、今年の秋には新しい建物の完成を受け、「観光・産業創造都市」への新しいページを開く条件整備が進みます。既に、5月には桜井駅南側のエルト桜井内のまほろばセンターもリニューアルオープンし（本誌でも既報）6月23日には、子ども広場「ひみっこぱーく」の来場者数が1万人に達したと報道（桜井市ホームページ）されています。

また、国（文化庁）が認定する「日本遺産」に、桜井市域では、一昨年の横大路に続いて西国三十三番札所が本年5月に選定され、長谷寺を核とした西国札所巡りにも、関心が高まると思われます。

（編集子 楠木克弘）



桜井駅北口東側のホテル新設現場

《食を考える ～安全な食品を選ぶ～》

①「生産」と「消費」の場の分離のもとで

20年ほど前、幼児教育に携わっていた現場でのことです。そのころ既に『子どもたちの自然との関わりや実体験の乏しさが、生きる力を阻害しているのではないか』という問題意識の中で、どのように保育で実践していくのかを話し合いました。そして、生活環境に、職員が子どもだった頃とは大きな変化があることが上げられました。

スーパーやコンビニで欲しいものがすぐ手に入る。収穫時期ではないイチゴや、スイカが店頭に並んだりトマトやキュウリが年中出回ったり、お金さえ出せば手に入れることができるようになったことに対し、昔は、例えば『お餅』を食べようとする、モチ米を洗って蒸し、それをついて丸めるといった作業を数人で協力して行ってきました。しかも、お米は苗代に“籾を蒔く”から始まり、“稲刈り～脱穀”までの膨大な手間と労力を費やして家族が力を合わせて働いてやっとお米が食べられるということを、その一端を担ってきた子どもは知っています。餅が食べたいと思っても、一朝一夕で出来るものじゃないと判っているから、ゴンタも言いません。現在の子どもは、お金で何でも買える、欲しいものが得られないのは、お金を出してくれない親のせいなのだから、自分の意を聞きいれてもらうための有効な手段として駄々をこねたり、大声で泣くのではないか。『待てない』『我慢できない』モンスターと呼ばれる子どもの当然の姿ではないかと。

話し合いの結果、子ども達と植物や作物を育て、それを調理をして食べる経験を通して、自然に働きかけ自然の恵みへの喜びや感謝、自然の大きさ・奥深さを感じさせたいと取組みを始めたことを思い出します。私たちの国はいつから、なんでもお金で買えると思うようになったのでしょうか。

現在の日本では『私⇒食べる人 あなた⇒作る人』と分けられたその境界にすごいスピードで、科学技術の進歩（もちろん否定するものではありません）とグローバルな経済の仕組みが入り込み、私たちの命にも大きな影響を与えています。（現在日本の食糧自給率は38%まで低下し、大きく外国に依存しています。）

②見逃せない食品の残留農薬基準緩和

今特に心配なのが『ネオニコチノイド系（以下「ネオニコ」と記す）』と呼ばれる農薬の影響です。効き目が強く長く効くので、他の農薬に比べて施す回数が極端に少なくて済む。高齢化で慢性の労働力不足に悩む農家にとって待望の農薬でした。しかし、その「ネオニコ」農薬の使用と、ミツバチが巣から急に消える『蜂群崩壊症候群』との因果関係が検証され、蜂蜜だけではなく花粉を運び植物を受粉させるミツバチがいなくなるということは人間の食糧生産の終わりと同じという判断がされ、さらに「子どもの脳や神経などへの発達性神経毒性がある」との欧州食品安全機関（EFSA）の見解に基づき、2006年にはフランスが、続いてドイツ、イタリア、EU諸国、ブラジル、韓国、台湾、そして（かつて冷凍毒入り餃子や残留農薬のすさまじい冷凍インゲンで大騒ぎした）中国でさえ習近平政権になり農薬の規制強化と禁止が具体的に進められてきたといえます。

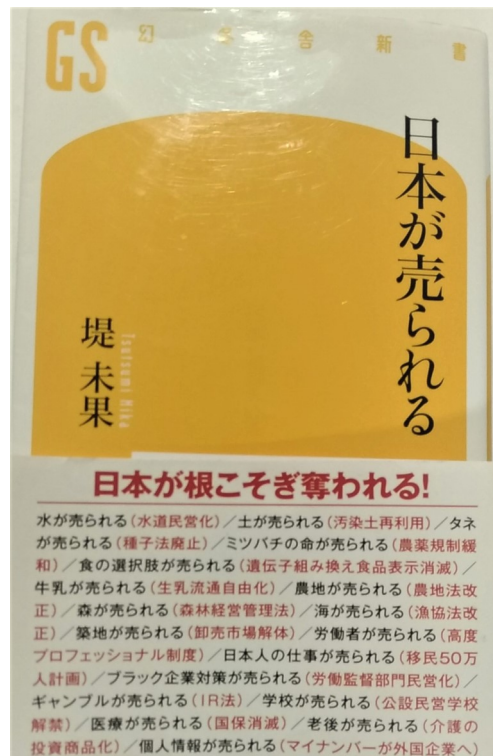
しかし日本では、それと同時期にまたそれ以降も、「ネオニコ」残留農薬基準値が大幅に緩和されているのです。その理由は先に述べた農作業の省力化と、ミツバチの死滅被害と「ネオニコ」との明らかな因果関係を無視しミツバチ大量死の原因はストレスとの結果を出しています。欧州食品安全機関の見解や、国内の実験結果を無視している状況です。

EU諸国の“生物多様性の予防原則”とは正反対の日本政府の判断と政策決定のもと、日本での「ネオニコ」系農薬の使用は猛スピードで拡大していると「日本が売られる（幻冬舎新書）」の著者堤未果（国際ジャーナリスト）は警告しています。

現在私たちは、自分の手で汗して作物を自給自足することを止め、代価を支払いそれを得る方法を選んでいきます。だからと言って、アメリカと同調し、さらに残留農薬基準値を上げる政府のやり方で何を食べさせられているのか判らないままでいいはずはありません。

どんな農薬を使っているのか、遺伝子組み換えや、ゲノム編集されているのかどうか、消費者が判断できる表示を求めていく、そして消費者の立場にたって、真に減農薬を実践し手間暇のかかるうえ、見栄えの悪い安全な作物を作ってくれる生産者と繋がり、応援していく（割高で見栄えの悪い、安全な作物を買うこと）等私たち消費者の覚悟も求められている活動をより一層広めていくことが必要と感じています。子ども達の食の安全のために学校給食などへの関心も高めていきたいものです。

*図書館友の会「読書会」で『日本が売られる』が取り上げられました。参加者の方に、「食の選択肢と農薬問題について」の感想と問題提起をお願いしました。関心を持たれた方は、上記の図書を参考に、いろいろとご意見もお寄せください。（読書会会員 南部 八千代）



うるわしの桜井をつくる会第9回定時総会

令和元年6月22日（土）大神神社大札記念館にて第9回定時総会が開催されました。

総会に先立ち、役員会員12名が正式参拝を受け当会の発展を祈願して参り、午後1時から総会が開会されました。堀井会長が議長に就き、議案審議が行われ、1号議案から5号議案のすべてが承認されました。

引き続き同会場にて公開講演会が行われ、大神神社権禰宜の山田浩之氏による「大神神社と国の始まり」では、全国各地に分祀されている大神神社・神神社・美和神社のお話があり、おおみわじんじや みわじんじや みわじんじや犬養万葉記念館館長の岡本三千代氏からは「新元号令和に寄せて」と題し、元号選定の元となった、梅花歌32首の序文についてのお話で、参加者全員が興味深く聞き入っていました。



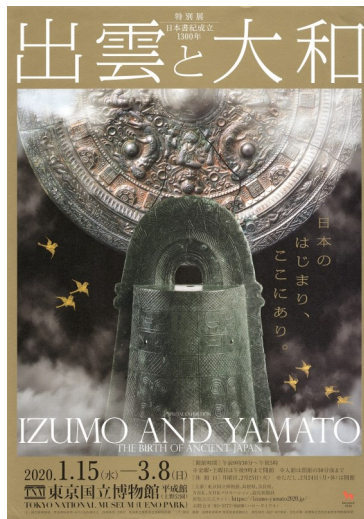
山田浩之氏



岡本三千代氏

特別展 出雲と大和

現在、古事記・日本書紀・万葉集に関わって地域の歴史や文化を紹介する取組みとして【記紀万葉プロジェクト事業】が奈良県や桜井市を中心に取組まれている。日本書紀成立1300年を迎える2020年（令和2年）の1月15日から3月8日まで、東京国立博物館平成館（上野公園）で、上記の特別展が開催され、そこには、奈良県から桜井市忍阪の石位寺の伝薬師三尊像（石仏 重要文化財）や天理市石上神宮の七枝刀（国宝）等々が出展される。島根県からは出雲大社の神宝（国宝）等の出展がされる。4月以降の行楽シーズンには関東方面から記紀万葉のふるさとである桜井にも多くの歴史ファンが訪れることが期待される。



お知らせ

●図書館友の会

7月の読書会は、折口信夫著『死者の書』です。
持統天皇により謀叛の罪で、吉備で刑死し、二上山に葬られた大津皇子の怨霊を描いた日本文学の傑作です。

日時 7月23日(火)13:30から
場所 エルト桜井 市民活動交流拠点
問い合わせ先 浅川 肇 TEL:090-1961-6345
友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 例年より大幅に遅れた梅雨入りとなり、市内を流れる初瀬川や寺川の水量が極めて少なく、農業等への影響も危惧された。このような遅い梅雨入りは、梅雨明け時の大雨と洪水が発生するのではないかと心配される。昨今の異常気象で、日本国中で、そして桜井周辺の山間部でも大雨による山崩れなども多発して、その復旧も半ばである。

いざという時に備えて、防災対策への自助・共助・公助などの備えは大丈夫なのか。もう一度見直しを！

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL:090-1678-9157